

# 半歩の壁

## 死に学び、生を考える

### 愛媛出版文化賞・部門賞受賞(応募総数53作品)!

### ぜひ貴店でもご展開くださいませ。

部門賞 「半歩の壁—死に学び、生を考える—」

山折 哲雄・中橋 恒著

## 最期の時の安寧へ 深い対話

■第4部門 その他文化全般 奨励賞該当なし

松山ベテル病院院長を務める中橋恒氏と、宗教学者の山折哲雄氏の共著「半歩の壁」死に学び、生を考える。「は、立場の異なる二人が読者に死生観の転換を問ういかけ、深い思索へと導く大作であることから、部門賞を授与することとした。

山折氏は日本の伝統文化に育まれた死生観と現代医学が生んだホスピスケアの融合により、死を点でなく「老病死」という流れの中で捉え直せないかと問う。あと半歩、医師も僧侶も死の現場に踏み込んで「大海に孤立した離れ小島のように安寧の中で迎えられるよう「半歩の壁」を乗り越えるべきではないかと提案する。この問いかけに対し、中橋氏は正岡子規が最晩年に著した「病牀六尺」を基にホスピス医としての答えを導き出している。

「病牀六尺」の中で子規は「悟りといふ事は如何なる場合にも平気で生きて居る事」だと記す。悟りとは生を含むあらゆる執着を絶ち、動しない心を得ることである。子規は不治の病に侵されながら絶えず、生きていくが故にさまざまなことに好奇心を持ち、生を楽しみ、その証しを「病牀六尺」に書き記した。

中橋氏は著書の中で「病牀六尺」を基に「悟りとは覚悟と希望」であり「日々を過していく中で希望が覚悟を支えているのだ」と指摘。また、子規が激痛を伴うカリエスという病の中で執筆できたのはモルヒネの存在、献身的な家族、そして高浜虚子や夏目漱石ら仲間を支えがあったからで、これこそがホスピスケアの本質だと主張する。

本書が読者に与える示唆は深く、時に恐怖や孤独に見舞われる「死」に対し、いかに心安らかに向き合うべきかを問いかける。現代社会において死生観は常に議論されるべきテーマであり、2人の対話を通して新たな視点が開かれることを期待する。(新井英夫)



●「死に逝く場所」に医療が立ち入ることは禁忌だという特有の思想に、宗教学者の山折哲雄と病院長の中橋恒が斬りこんだ良書です。

### 著者略歴

### 山折 哲雄(やまおり てつお)

1931年、米・サンフランシスコ生まれ。東北大学文学部印度哲学科卒業。宗教学者として国際日本文化研究センター名誉教授(元所長)、国立歴史民俗博物館名誉教授、21世紀高野山医療フォーラム副理事長、総合研究大学院大学名誉教授などを歴任。著書は『日本人の靈魂観』『義理と人情』『生老病死』など多数。和辻哲郎文化賞、NHK放送文化賞、南方熊楠賞ほか受賞。

### 中橋 恒(なかはし ひさし)

1951年、長崎市生まれ、金沢大学医学部卒業。松山ベテル病院院長。がんに関わる現場の医師を志し呼吸器外科医として肺がん診療に携わる。緩和ケア医を志し50歳でメスを置き、松山ベテル病院において終末期がん患者のホスピスケアに従事。日常診療に従事する傍ら、愛媛県在宅緩和ケア推進モデル事業に関わり県内各地での普及と啓発活動を行っている。分担執筆著書に岡田晋吾編『がん診療の地域連携と患者サポート』(医学書院)がある。

<p>貴店印・帳合</p> <p>ご担当 様</p>	<p>ご注文数</p> <p>冊</p>	<p><b>半歩の壁</b></p> <p>死に学び、生を考える</p> <p>山折哲雄・中橋恒/著</p> <p>定価：2,200円(10%税込)</p> <p>ISBN978-4-910739-39-7</p> <p>発売日：2023年10月5日</p> <p>四六判型/216頁</p> <p>PHPエディターズ・グループ</p>
----------------------------	----------------------	--

発行 | PHPエディターズ・グループ

ご注文はJRCへ▶▶▶ FAX 03-3294-2177

〒135-0061  
東京都江東区豊洲5-6-52  
☎ 03-6204-2931  
FAX 03-6204-2932

※返品条件付き注文扱い  
すべての取次への出荷が可能です。